

土木学会 土木史委員会

戦後土木施設の歴史・文化的価値に関する調査小委員会 活動概要

1. 小委員会活動の背景

- ・ 戦後に建設された土木施設を歴史的・文化的観点から価値評価するための評価軸や評価基準、評価方法等が十分に議論されているとは言い難い。評価対象とすべき施設のリストなど、価値評価の議論に資する基礎的な資料等も整えられていない状況にある。
- ・ 戦後土木施設については、その歴史的・文化的価値が評価されることの無いまま撤去されたり、あるいは供用中の施設においては価値に無配慮な改修が行われたりするといった課題が指摘されている。
- ・ 戦後に建設された土木施設は、大量かつ現役供用中の施設も多いことから、近代土木施設の価値評価とは異なる評価軸や評価基準、評価方法等の構築が必要である。

2. 小委員会活動の目的

- ・ 主に戦後に建設された土木施設を対象として、それらの維持管理・保全を通じた地域の高質化を視野に入れ、その歴史的・文化的価値を評価するための基礎資料を収集・整理する。
- ・ 戦後土木施設の歴史・文化的価値を評価するための方法論を構築する。比較的高い価値を有すると判断することのできる施設については、重要物件としての価値付けやリスト化を行い、その価値の保全に資する基礎資料として提供する。
- ・ 調査・研究成果を総合的に整理し、戦後土木施設の歴史・文化的価値の啓発に資する報告書や教材、書籍等として取りまとめる。

3. 小委員会構成

別紙参照

4. 活動経過・活動内容

2013（平成25）年2月以降 小委員会設置に向けた準備会・勉強会開催

2014（平成26）年6月 土木史研究委員会（当時）における小委員会設置承認

2015（平成27）年度以降 文化庁委託調査（近現代建造物緊急重点調査(土木)）の実施

- ・ これまでの調査対象分野：道路、鉄道、河川、砂防、都市、水道、港湾、発電、空港
- ・ 2019年度まで：既存図書や関係者へのヒアリングを通じた分野別小史の取りまとめ／1次調査リストの作成／モデル調査による価値評価の方法論（評価の枠組み）の検討／評価の枠組みに基づく2次調査対象施設の抽出
- ・ 2020年度以降順次：2次調査（資料調査・現地調査）の実施／個別施設の評価